



年頭のごあいさつ

茨城県知事
茨城県統計協会総裁

竹内 藤 男

新春にあたり、謹んで皆様のますますのご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。

昨年、県民の皆様の温かいご支援をいただき、引き続き県政をお預かりすることとなりました。新内閣が誕生したり、社会経済も

大きく変化するなかで、新たな気持ちで県政に取り組んでまいりました。

皆様のご協力のお陰で、県勢発展の基盤固めは着々と進みつつあります。昨年11月に東関東自動車道が開通したことにより、本県は2本の高速道路で東京と直結し、新4号国道、常総バイパスの整備が進み、霞ヶ浦大橋の開通や、新たに下総利根大橋が着工するなど、交通体系の整備が一段と進みました。

県内の工業団地へ研究開発型企業が続々と立地するなど、企業誘致も極めて順調に推移し、関東でトップ、全国的にも優位な位置を確保したのをはじめ、大阪で開催した茨城フェスティバルが大変な好評を博するなど、本県の持つ優れたイメージは内外に定着しつつある訳であります。このイメージをさらに高めるためのシナリオ「ブライツ茨城」もまとめました。

さらに、これからの高齢化社会に向けての総合的な施策づくりを進め、国際交流事業を展開するための友好交流協会ができ、婦人教育会館が開館し、ニューライフ県民大学を開催するなど、県民生活の一層の充実を図ることもできました。

市町村の要望を聞き、市町村の行財政力を強化し、住民福祉の向上を図るためにも頑張っただけでまいりました。かねて懸案であったつくば市も誕生いたしました。

今年は辰年、そして次の辰年は西暦2000年であります。先進的なものと豊かな自然が融合した21世紀日本のリーディング県をめざし、その基礎づくりを進めてまいりたいと思います。

常磐自動車道が3月にいわき市まで開通し、県北はますます東京に近くなりますので、豊かな自然を活かしたりリゾート・レクリエーション地域づくりを進めるとともに、常陸那珂地区開発や肋骨道路の整備促進を図ってまいります。国土幹線自動車道法に盛り込まれた北関東自動車道と東関東自動車道水戸線の整備促進を図ってまいります。今年はいよいよ霞ヶ浦用水の一部通水が開始され、県西への水供給が始まります。

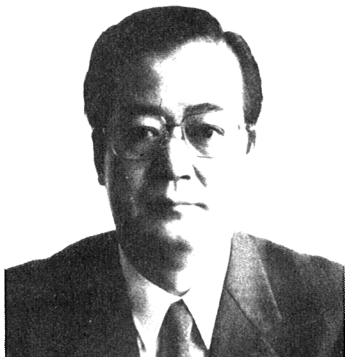
新生つくば市などを中心とした新つくば計画の策定を進めるとともに、つくばと東京を結ぶ常磐新線や首都圏中央連絡自動車道などの整備促進に努力し、首都東京の多極分散化への対応と東京圏の宅地供給の拡大を図ってまいります。

つくばには産官学の枠を越えた研究交流や人材育成を進めるつくば研究支援センターも稼働いたします。農業や中小企業の技術力の向上を図るため、国立二大学やつくばの研究機関と連携を緊密にし、産業の活性化と本県の科学技術集積の一層の振興を図ってまいります。

今年秋には千波湖のほとりに近代美術館がオープンいたしますし、最新の設備を備えた県立中央病院の完成も間近であります。高齢化に対応し、在宅高齢者の中期ステイやシルバー110番などの「茨城わくわくプラン」を実施に移し、また精神衛生センターや健康科学センターなどを集中する総合保健医療ゾーンの整備を進めてまいります。県民一人ひとりが心豊かに生きがいをもって暮らせるよう、教育、文化、医療、福祉などの充実に一層力を入れてまいります。

今年もまた、皆様方のお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

新年のごあいさつ



茨城県企画部長
茨城県統計協会長

安 達 常太郎

新年あけましておめでとうございます。

昭和63年の新春を迎えるにあたり、皆様方のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、日頃統計行政にお寄せいただいておりますご支援、ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

昨年は本県20番目の市として「つくば市」が誕生し研究学園都市としての基盤がさらに固まったところであります。昭和60年の科学万博以来急速に広がりつつある茨城のすばらしいイメージを、さらに、広めるため「ブライイトいばらき」をスローガンに、世界の中の茨城、日本の中の茨城、首都圏の中の茨城を確立するために、「形づくり」、「顔づくり」、「心づくり」を進めているところであります。

さて、我が国の社会・経済の情勢をみると一昨年からの急速な円高の進行、それに伴う輸出関連産業の不況、また、技術革新や高度情報化などによる産業構造の変化などがみられます。さらに高齢化社会への急速な移行など社会の急速な進展、多様化に対処していくためには、的確な現状把握と将来の進路を示す指標としての統計の果たす役割は一層重要性を増すものと思われまます。

しかしながら統計をとりまく環境は、権利意識の高まりや統計に対する理解の不足などにより依然として厳しいものがございます。このため県としましては統計に関する広報活動を充実強化するとともに、統計調査結果の県民への還元を充実させることにより、統計に対する県民の理解を深め、統計調査環境の改善に努めたいと考えております。

また、統計調査結果の早期公表、利用者のニーズに対応した提供方法の充実などにより統計の利用促進を図りたいと思っております。

昨年は皆様方の絶大なるご協力により、例年実施している統計調査のほかに、就業構造基本調査、全国物価統計調査の二つの大規模統計調査を順調に進めることができましたことを心から感謝申し上げます。

本年も茨城県農業基本調査、住宅統計調査、商業統計調査、漁業センサスなどの大規模統計調査が行われます。どうか皆様方におかれましては、統計のもつ社会的意義と重要性を十分認識いただき、本県統計事業発展のためなお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。